月刊 まち・コミ 2007年8・9月号

● インフォメーション ●http://park15.wakwak.com/~m-comi/

● 今月の注目記事 ● P１～P３ 出石市民農園報告　P５ 11月3・4日 ぜひ御蔵へお集まりください

# まち・コミュニケーションと出石町鳥居地区の市民農園交流

## ～ 継続的まちづくりの大切さと課題 ～

まち・コミでは、兵庫県豊岡市出石町鳥居地区で、やすらぎ市民農園を活かした地域活性化活動に取り組んでいます。当地区は2004年10月台風23号により、出石川の堤防が決壊。地区内全域に濁流が流れ込むという被害にあいました。

まち・コミは、阪神・淡路大震災の復興まちづくりで得た教訓を活かし、短期復旧救援ではなく、復興まちづくり、そして日常のまちづくりに活かす支援をする団体として、コミュニティの再建活性化を目指し、活動を続けています。その活動の様子を報告し、継続的まちづくりを考えます。

**●なぜ、まち・コミが出石町鳥居地区に？**

阪神・淡路大震災以降も、多くの災害が日本列島を襲った。とりわけ、阪神・淡路大震災の復興まちづくりに関わった当団体は、次の災害で活かせないものか考えていた。そんな中、各被災地に向かった。

水害で大きな被害を受けた豊岡に行ったが、そこにはボランティアが多く、出石町鳥居地区に向かった。汗を流し、泥かきを行った。作業の途中等で地元の方との話の機会があり、いろいろ地区の様子がわかり、コミュニティ再建のための市民農園構想があったことを知った（実際台風の2週間前に起工式をしていた）。ここなら、阪神・淡路大震災の復興まちづくりの教訓を生かせるのではないかと思い、市民農園再建に関わり始めた。

川が決壊して、流木や車が道路がふさぎ、道路のアスファルトがはがれて田圃の中にあり、家屋の8割が半壊している現状を見ると、とてもすぐに地域住民が市民農園の復興にまで手を回す余裕がないことは想像できた。その中で、当時鳥居区長であった廣井昌利さんは、「畑は一年休ますと復旧するのに、倍ほどかかる」「災害の復興が終わった後の課題は、区の活性化。有機農業を通じた、都市と農村の交流が区にとって必要だ。」と、自身も家が泥に浸かっている中、市民農園の必要性を地域内外に説いた。

まち・コミでは、廣井区長さんの地区や農業そして、それを通じた人に対する姿勢や想いに共感し、鳥居地区の今後の地域活性化維持のための市民農園復興にこそ協力しようと活動を開始した。

**●何かができるはず、農業に挑戦**

地元では廣井さんの強いリーダーシップの元、会議が進んだ。その間に神戸から関われるのは、荒れた農地の泥をとり、一刻も早く野菜を植え、それができることを行動で示すことだった。復旧活動に忙

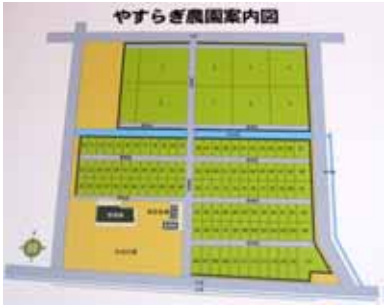
しい廣井さんに、農業の基礎からの指導を受け、有機農業に取り組んだ。畑の面積は3,000平方㍍。

参加者は、まち・コミ関係者や、神戸で出石の災害復旧を行った人、神戸御蔵住民と市民農園再建を願う出石鳥居地区住民など。2007年6月まで延べ約2,000人の応援者に支えていただきながら、途中で投げ出さず活動ができている。神戸から出石町鳥居まで、片道2時間半の道のりだ。

**●市民農園「やすらぎ農園」オープン**

2007年3月25日には、「やすらぎ市民農園」と休憩や食事ができる施設「鳥居のさと」のオープン記念行事が盛大に開催された。神戸からも参加者を募り、長田名物「そばめし」の屋台を出店した。

やすらぎ市民農園は、都市と農村の交流を目的に、約15,000㎡に117区画の貸し農園を整備。そのうち約半数の借り手がついた。「鳥居のさと」では、地元のご婦人方が、地元で採れた新鮮野菜を使った「かあちゃん定食」が、新聞でも取り上げられるなど、話題を呼んでいる。活動が安定するまで気は抜けないが、いいスタートを切ることができた。




**▲農園図**

**●活動３年目、まち・コミの現状**

1・2年目は収穫の翌日、まち・コミ事務所で販売。御蔵の人を中心に応援していただいた。(「月刊まち・コミ 05年9・10月号」http://machi-comi.homeip.net/m-comi/magazine/pdf/05-09.pdf 参照)

市民農園を盛り上げるためには、3,000平方㍍は必要だが、支出も大きい。農地の賃料や肥料代、苗代、種代、交通費等の費用がかかる。独立採算でないとまち・コミとして継続できない。広大な畑でできる野菜の収穫量は多く、関係者では食べきれない。

３年目（2007年）は、スタッフが少なく、常時御蔵の事務所で売ることができなくなった。そこで、じゃがいも2トン、たまねぎ1.5トン、大根1,500本等といった輸送できるものを生産し、全国のまち・コミ関係者に呼びかけて、宅急便で送ることに踏み切った。こうして、多くの応援団に支えられている。

**●まちづくりに向けた継続の難しさ**

たまねぎ、じゃがいも、黒豆の枝豆等を選んだ理由は、保存がきくので大量購入していただけること。まち・コミ関係者以外にも、台風23号の被災地へ思いを寄せるとともに、活動支援をお願いできればと思い、メディアにも広く呼びかけてもらった。

継続しながら市民農園のアピールしたいためメディアに広報したのだが、行政からは市民農園の野菜を価格入りで、公のメディアで広報しないでと言われてしまった。他でも継続できるようにとなんとか独立採算を目指し、段ボールもコンビニで頂くという工夫をしながら取り組んでいる。

まちづくり支援の現状は、ボランティアになってしまう。どんな活動費用でも、自分たちで出すべきだという人もいるが、それでは資金力のある人しかまちづくりの「継続事業」ができない。まちづくり事業は、地域の未来の責任も背負っており、やめたくなったら簡単にやめていい、というものではない。

地域の未来を考え、地区の皆の努力でそれが達成できるのであれば、まち・コミはできるかぎり行動し応援したい。

**▲そばめし隊**

**▲鳥居のさと**

**▲やすらぎ市民農園OPENチラシ**

**●まちづくりを支える、人と人の繋がり**

活動の中で感じるのは、個人のつながりの深さ。元区長の廣井さんとまちづくりを応援するまち・コミ。廣井さんと共感した元御蔵通５・６・７丁目町づくり協議会の田中保三会長。廣井さんへ、そして、神戸がお世話になったお礼をしたいと、神戸から通うボランティアの藤原柄彦さん、という風に、廣井さんの思いを個人が感じ、絆が強くなっている。そして、鳥居地区と御蔵のつながり、鳥居地区とまち・コミ支援者のつながり、などへと大きく発展し、市民農園再建への作業だけでなく、関係者が出石に多くの足を運び、出合いや交流の機会を提供する努力をしている。

**●まちづくりの支援としての、まち・コミの役割**

復旧時だけでなく、平常時にもまちづくりの価値を実感する場が必要だが、まちづくりを継続しなければ、価値は実感できない。役割を実感することが大切。役割を認識し、相手の役割もわかるようになるよう、まち・コミは役割を固定化せず、行動して、積極的に役割を見つけだすことの場づくりを重要としている。

鳥居地区では、市民農園が頓挫しかけたことがあった。その度に、廣井さんが呼びかけ、実現を目指した。最初は、ご婦人方の集まりに始まり、2006年にはいち早く、のじぎく国体出場選手の民泊を受け入れ、盛り上がっていく。そして市民農園オープン時のイベントは、地元で用意し、役割を担う。その後は、ご婦人が有機野菜いっぱいの「かあちゃん」定食を、農園利用者や、地元の方にも提供し、人が集う。

農園に利用者が集まれば、地元の方が、始めは遠目に見ているが、徐々に心配になり近づき、いろいろ野菜の作り方を教えてくれる。そして、しんどそうな方には作業の手助けもしてくれる。そしてその利用者が次の利用者にこの出来事をお話し、また同じようなことが違う利用者との間で行われる。徐々に場として運営されていき、各自の役割ができてくる。

やすらぎ市民農園と出会い、継続的役割が見えてきた。出石の復興まちづくり自体も重要だが、御蔵地区のためにも出石が重要である。都市と農村の交流で、いろんな事がわかる。各地域の生活を把握し、その想いが伝わる。そして相手の事がわかるようになる。自分の力を他で発揮すると、自分に返ってくるということを、再認識できた。阪神・淡路大震災では支えられ、出石等他の被災地で支え、そしてまた、自分の力が生かされ元気をもらうことで支えられる。

自分自身を俯瞰できるステップの場を「継続的」に創ることを、都市と農村の交流を通じてしていきたい。個人としてではなく、人の力が集まる集い（地域）として、力を発揮したい。

**●震災12年を経ても続く、「復旧ボランティア」と「まちづくり活性化グループ」の認識の壁**

まち・コミが事務所を置く、神戸市長田区御蔵地区でも現在、復旧と復興の壁にぶつかっている。それは継続的支援の難しさとも言える。

阪神・淡路大震災が起こった1995年は、ボランティア元年とも言われている。まだ日本では、ボランティア＝困っている人を助けるというイメージが強い時期だった。12年を経てどうだろうか。まちづくりを活性化するため当団体は12年取り組んできたが、まだ復旧を支援するイメージを持つ人が多い。

長期に及ぶ平常時の取り組みを全ての住民に理解されない時もある。先を見越して支援する。今やっていること全てが、今すぐ役立つわけではない。その支援のあり方は、少数しかわからないかもしれない。住民の年齢はさまざまで、自分の生活でめいいっぱいの人がいる。“今”と“自分”という尺度でしか、活動の価値を測れない人がいるのも現実だ。

神戸に限れば、まちづくり協議会ですら、復旧・復興のイメージが強く、ハード整備が終わると、休眠状態に入るまち協が多い。日常的なまちづくりに取り組んでいた御蔵通5・6・7丁目町づくり協議会ですら、2006年末に解散に追い込まれた。

復興のシンボルと言われる鳥居地区のやすらぎ市民農園が、一時的でない日常の継続される地域コミュニティー再生を目指し、各自役割を理解し、取り組み次世代へ引き継がれることを願い、「都市と農村の交流の価値」を感じ、微力ながら精一杯行動していく。

まち・コミ関係者のみなさまには、ご迷惑をおかけすることがあるかもしれませんが、今後ともよろしくおねがいいたします。

みくらエッセイ

# 「インドネシアとMikuraを結んで」

山田 理恵

私が初めてみくらを訪れたのは、今から3年前のことです。JICA（国際協力機構）の研修員受け入れ事業の一環で来日した、インドネシアのコミュニティ開発に携わるNGOワーカー達に同行する形でした。神戸を襲った大震災の後、どのように復興、再生、まちづくりをしてきたのか、というお話をリアルな映像やデータのスライドを見ながら伺った時の彼らの真剣な眼差しは、今でも私の目にはっきりと焼きついています。みくらという土地に外から共感をもって関わるボランティアとして、どっしりと腰を据えて地元の人達と活動を続けている、まち・コミ。お話を通訳する立場にあった私もどんどん引き込まれ、そのパワーに圧倒されるばかりでした。

その後２度にわたり、研修の一環として、インドネシアのNGOワーカーと共にみくらにお邪魔し、活動について学ぶ機会をいただくうち、私の中で、みくらでとことん地元に根付いて頑張るまち・コミの人達とインドネシアの地元で活動する彼らの姿が重なり始めました。遠く離れていても、国も文化も違っていても、外から共感をもって入っていくボランティアとして、コミュニティに関わっていくことに変わりはなく、共有できること、学びあえること、励ましあえることが必ずあるのだということが遅まきながらも実感できるようになったのです。

それまで、研修の通訳や同行をしてきましたが、もう一歩踏み込んだ活動がしたい…日本で地域づくりに取り組む人達とインドネシアのNGOの仲間を繋ぐ、架け橋になるんだ！と決意をしたのもこの頃です。つまり、みくらの皆さんが私の新しい人生を歩みだすきっかけを作ってくださった、と言っても過言ではありません。

現在私は、日本とインドネシアを繋ぐ活動をすることに賛同してくれた仲間にも恵まれ、東京のNPOでその活動をしています。昨年１１月には、団体が自己資金で招聘したインドネシアのNGOの仲間と共にみくらを訪れる機会をいただきました。地元の町が大規模な洪水災害に見舞われた時、ボランティア団体として被害者支援をしたインドネシアの彼は、情報収集・提供やボランティアとの連携の難しさを肌で感じ、今後の防災活動はどうすべきなのかを考えるため、まち・コミの経験を学びたい…そう言っていたのです。宮定さんはいつもの通り、飄々と、しかしながら力のこもった眼をして話をしてくれました。苦労していることも、隠すことなく…。まち・コミ訪問の後、彼は言いました。「宮定さんの生き方そのものがボランタリズムの真髄だね。いやぁ、参ったなぁ…。」

みくらというコミュニティに根ざしたまち・コミの活動は、そうやって心を揺さぶる活動なんですよね。それだけ本気じゃないとやっていけないことでもあります。だからこそ、これからも何度も訪れたいし、応援したいし、強く、つよく影響を受け続けたいと思っています。そして、私自身はインドネシアとみくらを繋ぐ存在でもあり続けたいと願っています。

○プロフィール○

やまだりえ　東京生まれ、東京育ち、横浜在住。いりあい・よりあい・まなびあいネットワーク（あいあいネット）で日本とインドネシアの市民社会を繋ぐ活動を担当。両国のNGOギョーカイの面白い人達と出会ってから、その摩訶不思議な世界にすっかりハマってしまい、お仕事は？と訊かれても素直にインドネシア語の通訳をしています、と答えられなくなっている。最近の悩みは、唯川恵の恋愛小説に浸っていて、活動報告書が書けないこと。

2007年
11月3日と4日

## まち・コミュニケーション関係者のみなさま
## ぜひ御蔵へお集まりください。

「月刊まち・コミ2007年2月号」でご報告しましたが、御蔵地域とまち・コミのまちづくりは今、大きな転換期を迎えています。誌面ではお伝えしきれていない部分が多々あり、この機会に、これまでの活動報告や、今後について、お話させていただければと思います。

２日間の詳細プログラムは、後日お知らせいたします。場所は、御蔵のまち・コミュニケーションの事務所です。

プログラムが決まっていない中恐縮ですが、ご参加いただける方は、現在の予定でけっこうですので「3日午後・4日午前・4日午後」の区分で、出席の旨お伝えいただけると助かります。出席状況をふまえて、企画内容の調整を行いたいと考えております。

また、ご参加いただけない方でも、まち・コミュニケーションへのメッセージを、10月13日までにいただけるとうれしいです。Ｅメール等、簡単な形式でＯＫです。

よろしくおねがいいたします。

連絡先：まち・コミュニケーション（ m-comi@bj.wakwak.com　tel 078-578-1100 ）

## 大地のつぶやき

### 〜出石鳥居やすらぎ市民農園雑感（Ⅰ）〜

二〇〇四年十月台風二十三号で出石川の堤防が決壊し壊滅的な被害を受けた出石町鳥居地区に、泥かきや後片付けのボランティアが御縁で、翌年三月より農園の支援を続けて三年目を迎えた。当初地元の人たちを元気づけることが目的であったが、農園で有機栽培の野菜づくりをすることによって、色んなことに目覚めさせられた。農は決して一人ではできない。何時の間にか地元の皆さんに手伝って頂いている。連帯によって動いていることを実感する。種を蒔き、芽が出る。やがて花が咲き、実が成る。収穫して食べる。何度も喜びや感動、感激を味わう。元日銀神戸支店長遠藤さんは「自然は嘘をつかない」と自らの菜園経験からおっしゃる。どんなに努力しても天候には敵わない。今夏、玉ネギは良かったがジャガイモは長雨で今一だった。

我々の世代だと戦後の十数年間、随分ひもじい思いをした。食膳に出た物は残さず食べるのは習い性になっている。しかし何時の間にか食卓が豊かになり、殆ど何も考えずに並べられた物を惰性の様に食べていた。作る側に立って「食前の言葉」を噛みしめている。世界では人間らしい生活から程遠い状態にある絶対貧困層が十億人と想定される。一方日本の台所から出るゴミの三十五％強は手付かずのものを含めて食べ残しと言われている。「飽食」から「放食」へ、こんなことが許される筈がない。二〇〇六年の食糧自給率が四十％を切った。高度成長を続けるＢＲＩＣｓは、四ヶ国で世界人口の四割、おまけに食糧分野とエネルギー分野の食糧争奪戦も始まっている。「農」は一時もおろそかに出来ない。

農園では一年目に見なかったみみずやおけら、こおろぎ等の虫類を避けながら鍬を振り汗を流している。未だ種や苗代、肥料代（石灰、灰、鶏糞等）、交通費等でペイしていない。今秋収穫の黒豆に全力を傾注していますので、読者の皆様方のご協力をお願い致します

株式会社兵庫商会　田中保三

## まち･コミ活動報告　7/1～8/31

7/5　サポーター打ち合わせ
7/6　(社)多治見青年会議所にて講演（田中）
7/7　出石市民農園収穫祭（そばめし屋台出店）
7/10 修学旅行生受け入れ H19年度前期反省会
7/14～16 出石市民農園 じゃがいも収穫･出荷
7/19～21 出石市民農園作業
7/27 月刊まちコミ印刷
7/29 専修大学大矢根ゼミ合宿 打ち合わせ
7/30･31 専修大学大矢根ゼミ合宿
7/30･31 月刊まちコミ発送作業
8/3 来訪 (神戸まちづくり研究所東末氏)
8/6 サポーター打ち合わせ
8/20 まち・コミ運営委員会（神戸）
8/21 修学旅行受け入れ研修会
8/24 スタッフ打ち合わせ
8/25 「夏休み防災未来学校2007」(人と防災未来センター) パネリスト参加

## ご支援、ありがとうございます。　7/1～8/31

●賛助会員(新規･継続)●

山内洋(東京都)　岡本誠(兵庫県)　秋原孝三(兵庫県)　黒田裕子(兵庫県)　越山健治(兵庫県)
武山ゆかり(東京都)　渋谷光延(兵庫県)　大山康子(神奈川県)　出口俊一(兵庫県)　津久井進(兵庫県)
上原照子(兵庫県)　武田則明(兵庫県)　清水紀男(兵庫県)　田嶋民子(兵庫県)　伊藤丈二(山口県)
中田頼雄(鳥取県)　野口磐之(兵庫県)　石崎勝伸(兵庫県)　平山京子(兵庫県)　直田春夫(大阪府)
松本達(岐阜県)　鮫島和夫(長崎県)　橋本渉一(兵庫県)　江田隆三(東京都)

●協力●

社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都)　株式会社兵庫商会(兵庫県)　【順不同･敬称略】

## 新規賛助会員募集＆更新のお願い

まち･コミでは、さらに活発に活動を行うため、賛助会員を募集し、金銭面でのご支援をいただいています。会費は、事業推進のために活用させていただきます。賛助会員のみなさまには、会員特典をご用意しておりますので、ぜひ賛助会員への登録をお願いいたします。

また、賛助会員は１年更新とさせていただいています。現在賛助会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。(期限は、「月刊まち・コミ」郵送時の封筒の、宛名の下に記載していますので、ご確認ください。)

**会員特典**

◆本誌「月刊まち・コミ」の送付。
◆まち・コミュニケーションに関する、Ｅメールでの情報送付、WEBの特別ページの参照

よろしくおねがいいたします。

**年会費**

**個人・法人　年間５０００円**
**学生　　年間３０００円**

**郵便振替口座番号**

**００９５０－３－４２７８８**

**口座名称**

**「まち・コミュニケーション事務局」**

■編集後記　昨年に引き続いての専修大学大矢根ゼミによる御蔵調査。今年のテーマは「産業」。飲食店や鉄工所など10カ所のヒアリング、お疲れさまでした。(戸)

2007年９月１日発行
編集／発行　まち･コミュニケーション
定価　１００円
*御蔵事務所*　〒653-0014
神戸市長田区御蔵通5-5
TEL　078-578-1100／FAX　078-576-7961
*東京事務所*　〒162-0052
東京都新宿区戸山1-24-1
早稲田大学文学部浦野研究室内
*神奈川事務所*　〒214-8580
神奈川県川崎市多摩区東三田２丁目1-1
専修大学文学部大矢根研究室内
e-mail　m-comi@bj.wakwak.com
URL　http://park15.wakwak.com/~m-comi/